

自動走行車による解決可能な行政課題について

- 実証エリアにおいて、自動走行車を活用することにより解決できる行政課題についてご記入ください。
- 交通不便地対策、高齢者対策など複数テーマがある場合は、それぞれご記入ください。

市町村名 犬山市

担当課・担当者氏名 秘書企画課 渡邊 樹

連絡先 0568-44-0312

テーマ 郊外型住宅団地における高齢者対策

【実証エリアの現状】

犬山市のほぼ中央部に位置する前原台団地は、昭和 51 年に民間開発により整備された 810 区画の住宅団地で、市内をはじめ、名古屋市や小牧市などに勤務する人々の受け皿となった。

しかしながら、大規模団地における他の事例と同様、開発時に同世代の者が一斉に入居したことによる居住世代の偏りがあり、少子高齢化に起因する人口減少が一気に進み、平成 17 年には 2,094 人を数えた団地内人口は、10 年後の平成 27 年には 1,872 人となり、10%以上の減少となっている。

高齢化率も著しく上昇し、平成 28 年 1 月 31 日現在で 37.8%と、市内平均 27.5%を大幅に超えている。また、平成 27 年に実施した空き家調査では、21 戸の空き家が確認されており、このまま高齢化及び人口減少が続けば、将来的には地域コミュニティの崩壊に繋がる可能性がある。

【交通事情】

前原台団地周辺の公共交通機関としては、団地の入口から 650m 程西に岐阜バスコミュニティが運行する路線バスの停留所があり、市の主要駅である「犬山駅」や、総合病院、スーパーマーケットなどが立地する五郎丸地区にアクセス可能となっている。

しかしながら、前原台団地は、団地南側の入口から北側に向かって急勾配の上り坂が続く構造となっている。入口から最も離れた北側の住宅までは 1.5km ほどあり、高齢者にとって、バスの利用は極めて困難と言わざるを得ない状況である。

市が運行するコミュニティバスは、団地内まで周回しているが、火・水・木・金曜日限定の一日 7 往復の運行であり、高齢者の要望に十分に応えられているとは言い難い。

【解決可能な行政課題】

今回提案するルートは、前原台団地の入口と、団地の高齢者が頻繁に利用する総合病院を結ぶ、道のりにして約 3.0km の行程である。

将来的に本ルート及び団地内において、自動走行によるタクシーの無人化により、ドア・ツー・ドアの安価な交通手段の提供が可能になれば、団地内の高齢者など交通弱者にとって、日常の買い物や医療機関での受診に対する利便性が高まり、団地内の定住人口の確保による地域コミュニティの崩壊防止につながるものと考えられる。

自動走行車の実験走行ルートについて（複数ルート提示も可）

1 区間

前原台団地入口（味鹿交差点） → 総合犬山中央病院

2 地理条件

- ①出発地の前原台団地には、約 1,900 人が居住しており、到着地である総合犬山中央病院及び近隣に所在するスーパーマーケット、ドラッグストア等を日常的に利用しているが、最寄りのバス停までは、坂道を最長 2km 以上歩く必要があり、高齢者を中心に自動走行車に対するニーズは高い。
- ②当該道路は、国道 41 号線とも直結しておらず、他地域の車の流入は少ない。
- ③岐阜バスコミュニティ「明治村線」が運行しているが、最寄りのバス停は、出発地から 650m ほど離れている。

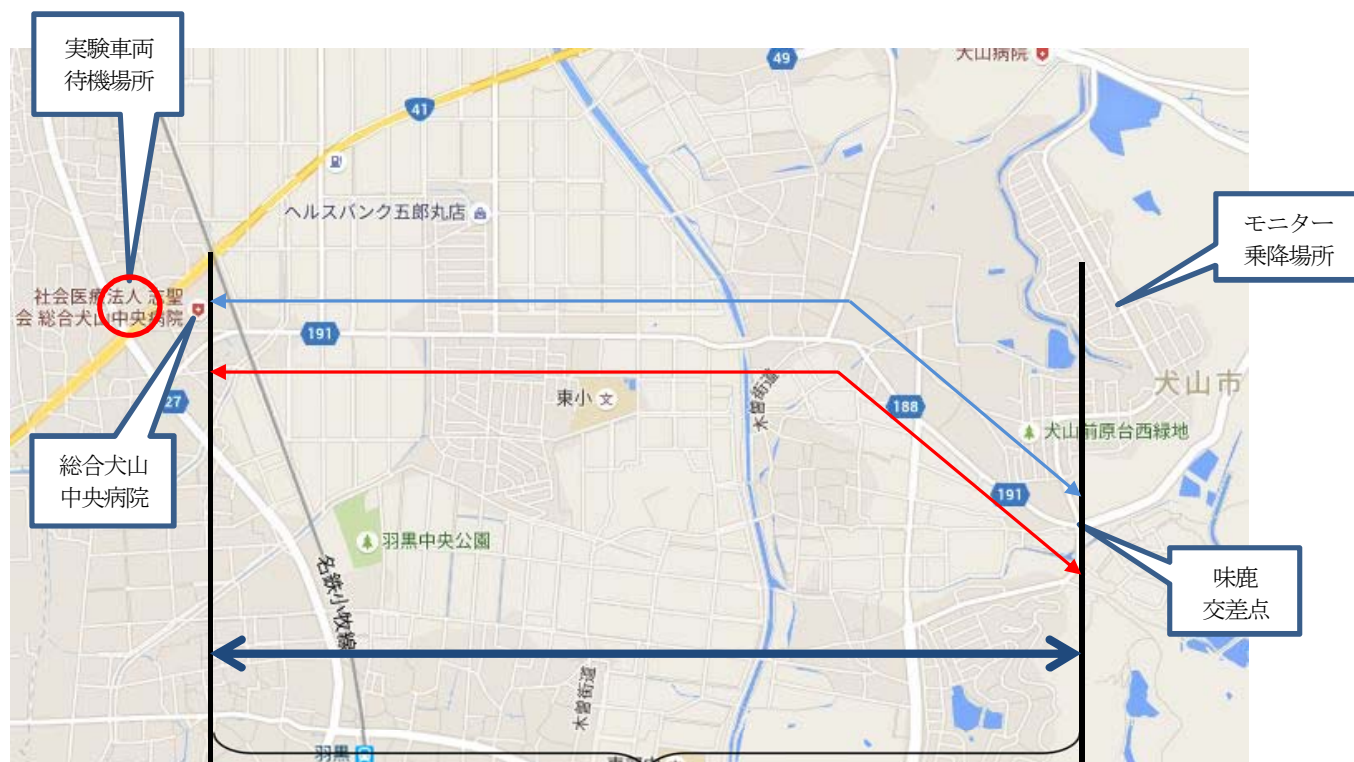
3 道路条件

- ①ルート延長 2.9km
- ②白線は明確に引かれている
- ③片側 1 車線の道路である
- ④一部区間、歩車分離されていない（白線のみ）箇所あり
- ⑤当該道路に流入する車両は少ない
- ⑥トンネル区間はない

4 その他

- ①関係者との調整に市として協力可能
- ②到着地の至近に実験車両の待機場所（犬山市消防本部）を確保することが可能

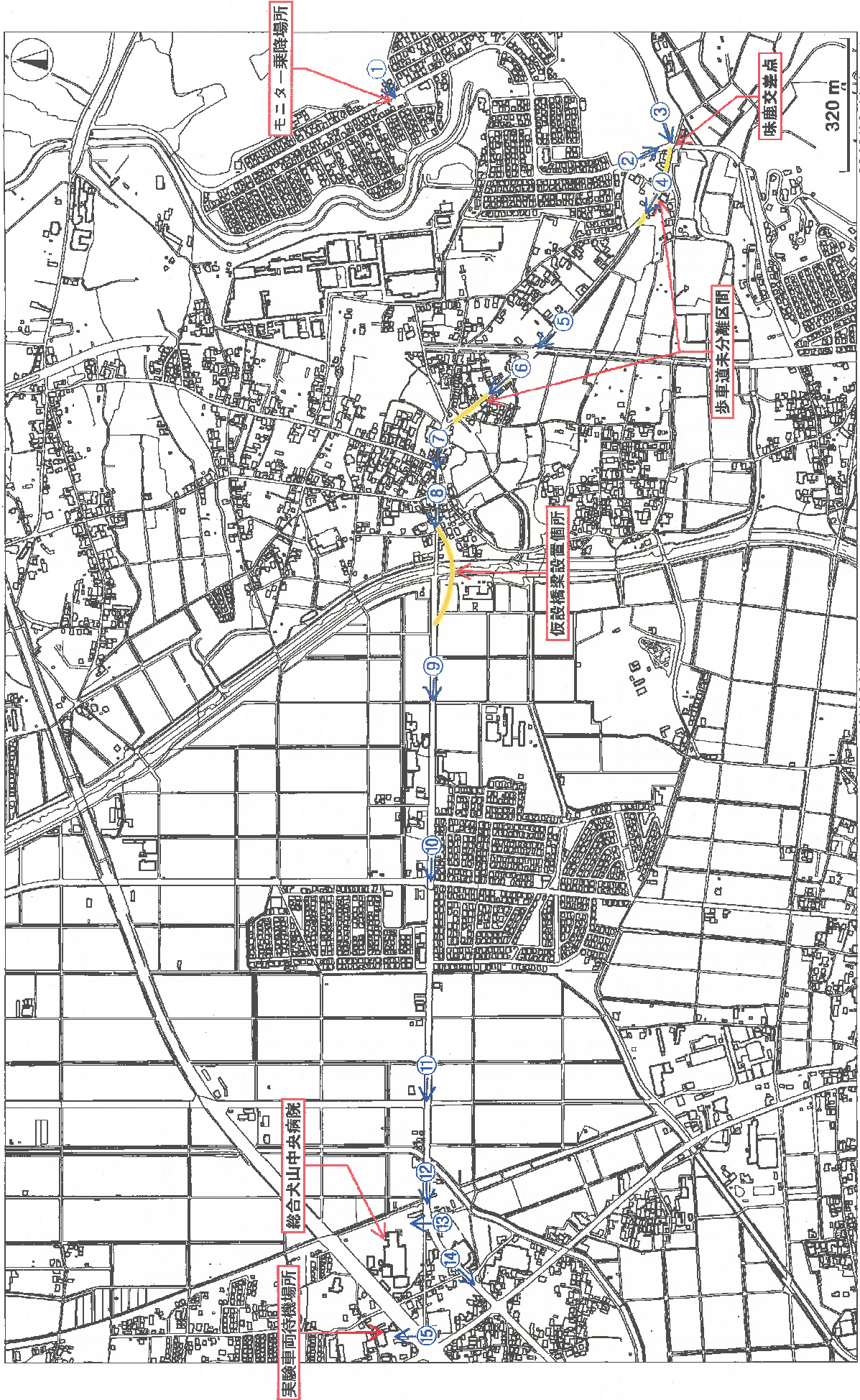
5 走行ルート（地図）



6 写真

別紙のとおり

自動走行実証走行ルート全図（犬山市）



1/12000

2016/03/12 13:01



①モニター乗降場所（集会場）



②味鹿交差点付近（北から）



③味鹿交差点付近（東から）



④歩車未分離区間



⑤前原東交差点付近



⑥歩車未分離区間



⑦前原交差点付近



⑧仮設橋梁付近



⑨ふなびきクリニック前信号



⑩日の出団地交差点付近



⑪五郎丸東交差点付近



⑫総合犬山中央病院前信号



⑬総合犬山中央病院



⑭目的地付近のスーパー



⑮犬山市消防本部（車両待機場所）